国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau

令和2年1月15日（水）
国土交通省関東地方整備局
関 東 技 術 事 務 所

記 者 発 表 資 料

「水防に関する技術」の出展を募集します。（第69回利根川水系連合・総合水防演習）

国土交通省関東技術事務所では、令和2年度に開催を予定している「第69回利根川水系連合・総合水防演習」において、水防関係者や一般の方々等に水防に関する技術を紹介するため、「水防に関する技術」の出展を募集します。

【募集概要】

〇募集対象 ：河川に直接的又は間接的に関連する水防に関する技術であること。
①工法　②材料　③機械　④その他

〇募集期間 ：令和2年1月15日から令和2年2月17日まで

〇応募方法 ：　応募様式に必要事項を記入し、メール又は郵送で提出をお願いします。
応募に関する申し込み方法等の詳細は
関東技術事務所ホームページをご覧下さい。
URL：http://www.ktr.mlit.go.jp/kangi/index.htm

〇開催概要　日時 ：　令和2年5月16日（土）
場所 ：　群馬県邑楽郡千代田町大字赤岩地先
（利根川左岸159．0k付近）の利根川河川敷

発表記者クラブ	
竹芝記者クラブ	神奈川建設記者会
千葉県政記者クラブ	松戸記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省　関東地方整備局　関東技術事務所
電話 ： 047-389-5121（代表）　FAX ： 047-330-6276
副　所　長　国頭（くにがみ）　正信（まさのぶ）　（内線：205）
防災技術課長　中山（なかやま）　修司（しゅうじ）　（内線：331）

第68回利根川水系連合・総合水防演習の展示状況

★ 水防技術の事例（参考）

※当該資料は、第68回利根川水系連合・総合水防演習の展示技術から事例となる技術を参考に掲載したものです。募集技術を限定するものではございません。

氾濫防止

◆ 技術名： ハイブリッドパネル堤
概　要： 一定間隔に設置した支柱間に止水パネルをはめ込んで止水壁を構築することで、堤防からの越水を防止する。

◆ 技術名： 止水板
概　要： 河川からの浸水防止、地下道への流水防止などに初期対応としてとして使用して被害の軽減が図れる。

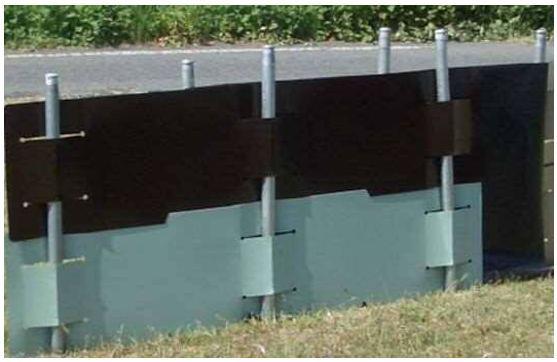
◆　技術名：　ソーラー発電による水門自動開閉装置”お助け門”と遠隔監視操作システム”見知らせ”
（NETIS登録番号：KT-150093-A）
概　要：　既設手動水門に駆動装置、ソーラーパネル、バッテリー、操作盤等を取付け、外部電源不要で自動運転化するシステム及びパソコンやスマートフォン、タブレットなどから遠隔で水門を監視し、必要に応じて水門を開閉操作するシステム。

<u>水防作業の補助</u>

◆　技術名：　越水止めスイノウ
概　要：　半円形のフレキシブルな密閉容器で、注水し水の重みで止水する。土嚢工法の代用として使用する。

◆　技術名：　三角水のう
概　要：　軽量で、かつ柔軟で耐久性のある防水シートで製作した三角形状の水のうで、注水することで堤防からの越水防止、堤内地での浸水防止などに用いる。

◆　技術名：　土嚢レス止水板システム
概　要：　越水止め工法の資材として使用され、人力２人で設置が可能であり、嵩張らないため備蓄資材として有用性も高くなっている。



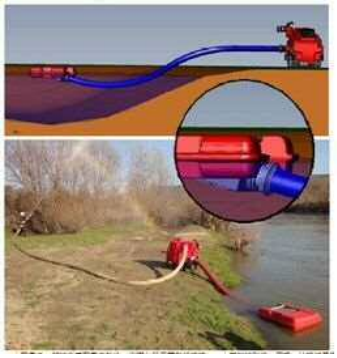
◆　技術名：　ウォーターフェンス防災型
概　要：　土嚢の代用品。
越水や浸水に対応するための資材。

◆　技術名：　スーパーダッシュバッグ
概　要：　水を吸水させて土嚢の代用品として使用する。

氾濫時の被害軽減

◆　技術名：　可搬ポンプ＋フローティングストレーナー

概　要：　主に消防用に用いられるが、大雨による冠水時は、排水用としても使用することが出来ます。セットでフローティングストレーナーを使用する事で、水の吸い込み口にフロートがついている為、冠水時に底が見えない状態でも底の石や泥を吸わず上面から水を吸い上げてくれる。



◆　技術名：　MULTI　FLOW　System搭載車

概　要：　河川氾濫による洪水や低地の溢水による排水対策が必要な場所に自走移動して排水作業が出来る。遠距離給排水ができ、消防ポンプ自動車としても利用可能。

水位計測

◆　技術名：　無人航空機（UAV）による撮影画像の配信

概　要：　無人航空機（UAV）にて撮影した画像をインターネット端末を通じて配信するサービスであり、現地被災状況の画像を配信することで適切な対策の指示を行うことが出来る。

◆　技術名：　危険水位到達管理システム（Iシェア）（NETIS登録番号：QS-180026-A）
概　要：　水害危険性の周知においてIot技術を用いた危険水位到達管理システムであり、ソーラー電源及び簡易な水位到達センサを用いて水位到達時に関係者へ自動メール発信することで水害危険性の周知に貢献できる。

<u>救助・避難</u>

◆　技術名：　①ウレタン注入救助ボート
②セーフティーボート
概　要：　ボートの底部や側面部（チューブ）に空気ではなく、ウレタンを注入することで穴あきによる空気漏れ、破裂によるパンクが無い不沈ボート。車輪を付けることにより、リヤカーとして活用できるため、救助の負担軽減が出来る。

◆　技術名：　水難救助艇
概　要：
発泡ウレタン一体構造なので水害時に漂流物に衝突しても破損することなく人命救助が出来る。また、船内が浸水しても沈まない浮沈構造である。

◆　技術名：　津波シェルター（タスカル８＋Ｆ）
概　要：　津波被害から生存率を劇的に高める津波シェルター。水上で横転しても自動復帰するセルフライディング設計、船内が浸水しても沈まない浮沈構造、衝撃を吸収する大型フェンダーを全周に設置されている。

◆　技術名：　防災・救命シェルター　CL−HIKARi
概　要：　津波又は内水氾濫・洪水時には、水に浮くとともに自動スイング構造により、脱出面が自動的に上を向き水上での脱出を可能とし、家屋倒壊時も荷重に耐えられる構造である。

◆　技術名：　洪水対策用避難タワー
概　要：　河川氾濫時に避難する施設。沿岸地区の津波避難タワーと同様の機能を果たす構造物。基本的に鋼製構造物のため比較的安価で、短期間で施工出来る。防災無線、監視カメラ、備蓄倉庫を併用し多目的防災施設として利用出来る。